

名古屋港で「みなとの役割」について学ぶ

～ 京都の小学生が名古屋港を見学しました ～

平成29年4月21日(金)に京都市内の小学生が名古屋港を見学しました。見学を通じて、普段あまり見る機会の無い港の様子に直接触れることで、私たちが生活する上で欠かせない「みなとの役割」について理解を深めて頂きました。

1. 概要

平成29年4月21日(金)、京都市立八瀬小学校の生徒5名が、授業で学んだことの理解をより深めるため、名古屋港を見学しました。

生徒の皆さんは、名古屋港湾事務所所有の業務艇「翔龍」に乗船し、事務所職員の説明を受けながら、高潮防波堤、コンテナターミナル、新名古屋火力発電所、名港トリトンなどの施設や、自動車運搬船、浚渫兼油回収船「清龍丸」、コンテナ船などを船上から見学しました。

2. 見学の様子

生徒の皆さんは職員の話真剣な表情で聞きながら、普段あまり見る機会の無い港の様子に目を輝かせていました。見学後は、「名古屋港でこんなにたくさんの輸入や輸出が行われていることを初めて知った。」、「港はいろいろな役割があって大事だと思った。」などの感想を述べていました。



港内見学の様子①



港内見学の様子②

3. 配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

4. 問合せ先

中部地方整備局 名古屋港湾事務所 企画調整課 三崎(みさき)、前川(まえかわ)